



CSでどんな子どもを育てたいのか 地域の力で子ども未来をつくる

↓ どのような人間性を

二〇四〇年、皆さんは何歳になりますか。今の中三の生徒は、三十五歳前後、小六の児童は三十歳を超え、年長の幼児は、二十六歳と日本の生産年齢の重要な位置を占めることになります。二十年後の社会を支える人材は、どんな人間であってほしいと思いますか。たくさん要素があつて難しいことですが、次に紹介する子どもの感想を読んで皆さんはどう感じますか。(学校報から抜粋)

保呂羽山宿泊体験後の感想から(駒形小学校五年生)

・(前文略) これからの湯沢市は人口が減り、お年寄りが増えていくかもしれないので、おじいちゃんやおばあちゃんが住みやすいところをつくるために、子どもや若い人たちといっしょにできる限り助け合うことが大切だと思いました。ゴミを拾い、土地を汚さないようにしたり、人にやさしく接したりすることをがんばりたいと思います。

・(今回の体験を通して) 仲間を助けたり、仲間に助けられました。助けられた人は本当に感謝しているのだと思いました。保呂羽山で助け合ったように、思いやりの気持ちや助け合いの気持ちをもってたくさんの方が助け合ったり、思いやったりしてほしいと思います。小さな助け合いや思いやりが広がって湯沢市全体がよい町になるといいです。

参考に

本県の総人口は、二〇四〇年年には約七〇万人になると推計されています。特に年少人口(〇〜十四歳)は、二〇一〇年と比較して半減する見通しとなり、(十二万四千九十二人↓五万八千三百二人)また、生産年齢人口(十五〜六十四歳)は、老年人口(六十五歳以上)とほぼ同じになります。教育は地域のエンジンであるとも言われていますが、未来を託す子どもたちには、どんな力があればいいのか、大人たちができることはどんなことか、考えていきたいと思います。

現在地とこれからの方向

山田中学校 学校運営協議会会長 小嶋 達夫

ここ一年半、子どもたちとの直接的な交流は、ほぼゼロとなつてしまった。それゆえに、現在最も大切に行っていることは、情報共有・意見交換・学校への提言を主たる内容とする熟議の時間の充実である。参会者一人一人の声をできるだけ多く吸い上げ、教育活動への反映させていたためにコーデイネートといったところか。

ある会議の場で「こういう時期だからこそ、やるべきことがあるのではないか」という声をいただいた。事実、危機管理等にかかる日常的な活動、地域の歴史、伝統文化の継承、SDGsに関連させた活動など、地域を活性化させ、子どもたちの未来を切り開くための材料は豊富にある。

「素材(人・もの・こと)を生かして子どもを育てる」迷ったときは、ここに立ち返りたいものである。

SDGs(エス・ディ・ジーズ)「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」世界の国々が話し合い、二〇三〇年までに世界が取り組むべき貧困や飢餓、働きがい、経済成長、気候変動など、世界が抱えるさまざまな課題が網羅されている十七の目標として二〇一五年に国連総会で採択された。

地域と学校の連携・協働

地域と学校がより近付き、互いに顔の見える関係を築いていくことは、非常時の円滑な体制づくりにつながっていきます。東日本大震災時の宮城県校長四十名へのアンケートによると「CSおよび地域学校協働本部が存在した学校の九十五%は混乱しなかった。またそれがなかった四十%の学校は逆に混乱した」と答えています。湯沢市には、地域と学校が共に学びを深め共に活動することができると素晴らしい地域資源があります。湯沢市は、これまで培った生涯学習の成果を生かしながら、互いに信頼し合い、支え合い、助け合うことができる地域なので

第2回 学校運営協議会開催

7月29日

1学期の取組について話し合いました。出された意見の一部を紹介いたします。

○昨年度に比べ、地域の方や学校支援ボランティアの方が来校し、ふるさと先生として子供たちに関わる機会が多くなった。

○子どもたちと一緒に活動することにより、地域も元気をもらっている。学校と地域の協働は、子どもたちと地域それぞれにとって意味のある活動だと感じている。

地域を学ぶというだけでなく、地域の方を知ることもできます。要所見学のCSします。

○地域で、子どもたちのあいさつがよくなされている。登校時や下校時、子どもたちが家の前を通るのを楽しみにしている地域の方も少なくない。自然な子どもの見守りがなされていると思う。

二学期は、児童会主催の「あいさつで笑顔を広げよう」プロジェクトを予定し、ちが地域にすので

市民総ぐるみの教育への土壌があるのですから、さらに多様な人々を学校に活かすことができるはず。そのためにも



2021 - 夏 -

やCSのことを広めて
いきましょー！

もっと学校運営協議会

令和3年度 湯沢市立駒形小学校 コミュニティ・スクール通信

湯沢市立駒形小学校
学校運営協議会報
第1号
令和3年 4月30日(金)

前半の重点は明るいまいさつと受け答え

昨年度から始まった学校運営協議会は、2年目になります。昨秋には、自治区や地域の方々と通学路のゴミ拾いを2回行いました。駒形地区にはあまりゴミが落ちていないことを子どもたちは実感していました。

4月23日に全校PTAと併せて第1回目の協議会を開き、今年度の計画について話し合いました。駒形地区の皆様と一緒に、本校の子どもたちを育てていきたいです。また、子どもたちが地域のためにできることや地域のよさを十分に学びながら、自分の夢の実現に向けて努力し続けてほしいと願っています。



【会長の八西さん、副会長の日野さん】

今年度1学期の重点は、「地域や家庭で明るく元気なあいさつをすること、聞かれたことを受け答えができるようになること」です。登下校時に本校の子どもたちが地域に元気をいさつをがんばらせたいと思います。地域の皆様方も、本校の子どもたちにぜひ声を

地域の皆様と一緒に目指す子どもの姿
地域のよさを知り、大切に自分の夢に向かって、自ら学ぶ

学校報の他に、学校運営協議会便りを発行する学校も多くなりました。北中・東小ブロックでは、協働本部でフェイスブックを作成して、情報発信を始めました。湯沢西小では推進員が「ボランティア通信」を発行しています。

令和3年 7月21日 第1号

湯沢西小地域学校協働活動推

スクボラ通信

新生西小としてのボランティア活動が始まりました！！

今年度より、湯沢西小・三関小・須川小の3校が統合となり、新生西小として地域学校協働活動が始まります。新型コロナウイルス対策をとりながら、先生方と連携を取り、可能な限りの活動をおこなって。1学期、おかげさまで多くの方々にご協力ご支援をいただきました。心から感謝申し上げます。ここで活動の一部ですが、ご紹介させていただきます。通信の名称については「スクールボランティア」とり、『スクボラ通信』とさせていただきます。

1年生 下校指導

ピカピカの一年生のために、下校指導としてボランティアの方々やご家族の皆さまにもご協力をいただきました。



3年 ゲストティーチャー

総合的な学習で三関地区のさくらんぼの魅力やおいしさのひみつなど、丁寧にわかりやすく教えていただきました。学習で作した宣伝用ポスターは直売所に展示し



全国 CS 研究大会 in 三鷹のお知らせ

11月6日(土)に「WEB 参加」のみで開催されます。参加費は無料です。ぜひ、学校運営協議会委員の皆さんに視聴してほしいと思います。

別紙でパンフレットをお届けしますので、都合がつく方は、それに掲載されているQRコードで申し込んでください。<31日締め切りです>